

## 平成 26 年度実施施策に係る事後評価書

(文部科学省 26-7-1)

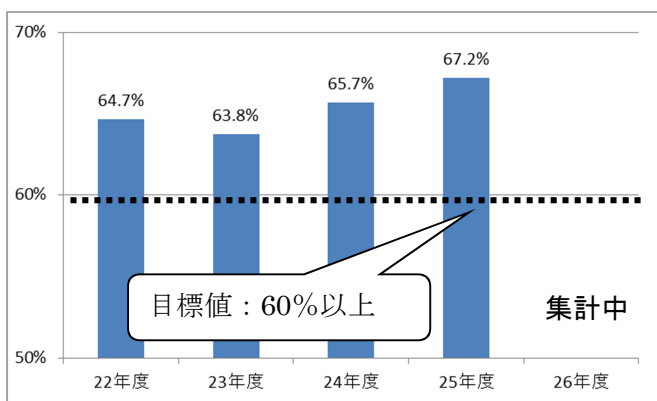
施策名	科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成
施策の概要	天然資源に乏しい我が国にとって、科学技術と人材こそが唯一の資源である。未来を創る若手研究者等の支援の強化を図るため、自立的な研究環境の整備、若手研究者等が能力を發揮できる環境整備を支援するとともに、理数分野において優れた素質を持つ児童生徒を発掘して、その能力を伸ばすための取組を推進する。また、科学技術の社会的信頼を得るために、広く国民を対象として、科学技術に触れ、体験・学習できる機会の拡充を図る。

達成目標 1	1：次世代を担う科学技術関係人材の育成のため、子供が科学技術に親しみ学ぶことができる環境の充実を図る。 2：理数に興味関心の高い子供の能力を伸長することができる効果的な環境を提供する。 3：科学技術に関する基礎的な知識・能力の向上に資するため、国民が科学技術に触れる機会を増やす。							
達成目標 1 の設定根拠	第 4 期科学技術基本計画において、「次世代を担う才能豊かな子供達を継続的、体系的に育成していく」ことや「国民の科学リテラシーの向上を図る」ことがうたわれていることから、それらに資する上記取組を達成目標に設定した。							
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定
	19 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	
①SSH 出身の理系学部専攻の卒業生が「SSH 参加が現在の専攻分野選択に影響した」と回答した割合	60%	65%	64%	66%	67%	調査中	60%以上	-
	年度ごとの目標値	-					/	
	目標値の設定根拠	第 4 期科学技術基本計画において、「次世代を担う才能豊かな子供達を継続的、体系的に育成していく」ことや「国民の科学リテラシーの向上を図る」ことがうたわれていることから、それらに資する上記取組を達成目標に設定した。目標値については、平成 19 年度の実績 (60%) を上回ることをして設定している。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定
	23 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	
②サイエンス・インカレに応募する学生数	257 人	-	257	367	334	443	対前年度比増	S
	年度ごとの目標値	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	/	
	目標値の設定根拠	○ 第 2 期教育振興基本計画 14-2 理数系人材の養成 「…サイエンス・インカレ等の参加者数を増加させる」 ○ 第 4 期科学技術基本計画 IV. 3. (3) 次世代を担う人材の育成 「国は…『サイエンス・インカレ』の実施など、科学技術に対する関心を高める取組を強化する」などとされており、サイエンス・インカレの参加者数を増やすことが理数に興味関心の高い学生の能力を伸長することができる効果的な環境を多くの学生に提供することに資すると考えられることから、事業開始年度の平成 23 年度を基準とし、毎年順調に増やしていくことを目指し、前年度以上の学生から応募を受けることを目標値とした。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定
	22 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	

③科学技術週間のサイトへのアクセス数の推移(人)	571,234	571,234	583,248	389,283	756,842	703,442	直近3か年のアクセス数の平均	S
	年度ごとの目標値	—	—	—	514,588	576,458		
	目標値の設定根拠	○ 各種の科学技術週間に関する情報を一元化して広報することにより、効率的に科学技術の理解増進を図ることを目的として、科学技術週間のHPを公開している。本HPのサイトへのアクセス数を科学技術に触れた国民の規模を図る指標として設定し、直近3か年のアクセス数の平均を上回ることを目標値とすることとした。						
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定
	—	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
④全国学力・学習状況調査の結果 前年度に理科室で観察や実験をする授業を1クラス当たり「週1回以上行った」と回答した学校の割合	—	—	小: 56.1% 中: 55.5%	—	—	—	対前回比増	—
	年度ごとの目標値	—						
	目標値の設定根拠	○ 現行の学習指導要領の理科では、科学的な見方や考え方を育成するため、観察・実験を重視していることから、理科の授業において観察や実験の機会が増加しているかを評価するため、全国学力・学習状況調査の同項目の調査結果を指標として設定し、前回調査から割合が増加することを目標値とすることとした。						

施策・指標に関するグラフ・図等

①SSH 出身の理系学部専攻の卒業生が「SSH 参加が現在の専攻分野選択に影響した」と回答した割合 (%)



達成手段  
(事業)

名称 (開始年度)	平成 26 年度予算額 (執行額) 【百万円】	平成 27 年度 当初予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
科学技術に関する人材の養成・活躍促進及び理解増進 (平成 23 年度)	5,104 (4,864)	4,570	167
スーパーサイエンスハイスクール ※会議の開催等に係る経費 (平成 14 年度)	3.5 (3.1)	3.1	170
理科教育等設備整備費補助等 (昭和 29 年度)	2,400 (1,902)	2,364	171
関連する独立行政法人の事業			
名称 (開始年度)	平成 26 年度予算額 (執行額) 【百万円】	平成 27 年度 当初予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	124,445	100,553	173

国立研究開発法人科学技術振興機構 設整備に必要な経費 (平成 21 年度)	126.2 (124.7)	485.6	174
国立研究開発法人科学技術振興機構設 備整備費補助 (平成 26 年度)	1,590 (1,551)	948	175
達成目標 1 に関する 特記事項	—		

達成目標 2	若手研究者や女性研究者、研究支援人材など多様な科学技術人材が活躍できる環境が整備される。								
達成目標 2 の 設定根拠	第 4 期科学技術基本計画において、テニュアトラック制の導入推進により研究者のキャリアパスの整備を図ることや、人材の流動性を高めること、女性研究者や研究支援人材の活躍促進を図ることがうたわれていることから、それらに資する上記取組を達成目標にした。								
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定	
	26 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	34 年度		
① コンソーシアム 内で雇用した研究 者のうち常勤 で任期なしの研究 職に就いた研究 者の割合	—	—					調査中	対前年度 比増	—
	年度ごと の目標値	—							
	目標値の 設定根拠	○ 科学技術イノベーション総合戦略 2014 第 3 章 3. ①多様で柔軟な発想・経験を活かす機会の拡大、＜主な関連施策＞ 「・公正・透明な評価制度に基づく若手研究者の安定的な雇用と流動性を確保する仕組みの拡大」とされていることから、コンソーシアム内で雇用された研究者が、事業による支援終了後に常勤任期なしの研究職に就き、安定的な雇用を得ることが目標達成に資する成果と考えられるため、左記指標を設定し、毎年度その割合が改善されていくことを目標値とすることとした。							
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定	
	26 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度		
② PBL を用いたイ ノベーション教育・起 業家教育を受講した大 学院生・若手研究 者の人数 (人)	—	—					調査中	対前年度 比増	—
	年度ごと の目標値	—							
	目標値の 設定根拠	○ 理工系人材育成戦略 【戦略の方向性 2】子供たちに体感を、若手・女性・社会人に飛躍を 重点 6. 学生・若手研究者のベンチャーマインドの育成 「ベンチャーマインドや事業化志向を身に付ける大学の人材育成プログラムの開発・実施を促進、大学発ベンチャー業界等に飛び込む人材や新規事業に挑戦できる人材を育成」とされていることから、大学における人材育成プログラムの開発・実施状況を図るため、左記指標を設定し、毎年度その人数が着実に増えることを目標値とすることとした。							
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定	
	22 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度		
③ 自然科学系にお ける若手新規採 用教員に占める テニュアトラッ ク教員の割合 (※「テニュアトラッ ク普及・定着事業」実施 機関)	11.5%	11.5%	17.1%	18.9%	20.3%	22.6%	30%以上	A	
	年度ごと の目標値	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上			
	目標値の 設定根拠	○ 第 4 期科学技術基本計画 IV. 3. (2) 独創的で優れた研究者の養成 ②研究者のキャリアパスの整備 「国は、テニュアトラック制の普及、定着を進める大学への支援を充実する。これにより、各大学が、その目的や特性に応じて、テニュアトラック制の導入を進めることにより、テニュアトラック制の教員の割合を全大学の自然科学系の若手新規採用教員総数の 3 割相当とすることを目指す。」							

成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定																		
	23年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																			
④ 大学の自然科学系における採用教員に占める女性割合	24.2%	調査せず	24.2%	25.4%	調査中	調査予定	30%以上	-																		
	年度ごとの目標値	-																								
	目標値の設定根拠	○ 第4期科学技術基本計画 IV. 3. (2) 独創的で優れた研究者の養成 ③女性研究者の活躍促進 「国は、現在の博士課程（後期）の女性比率も考慮した上で、自然科学系全体で25%という第3期科学技術基本計画における女性研究者の採用割合に関する数値目標を早期に達成するとともに、更に30%まで高めることを目指し、関連する取組を促進する。」																								
成果指標 (アウトカム)	基準値	実績値					目標値	判定																		
	目標の設定根拠	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																			
⑤ 大学等におけるリサーチ・アドミニストレータ組織の整備状況（機関） （※「大学等」とは国公立大学、大学共同利用機関及び国公立高等専門学校）	-	-	50	58	69	調査中	対前年度比増	-																		
	年度ごとの目標値	-																								
	目標値の設定根拠	○ 科学技術イノベーション総合戦略 2014 第3章3. (2) イノベーションシステムを駆動する～分野や組織の枠を超えた共創環境の実現～ 「研究マネジメントや研究支援に係る人材を国全体で継続的かつ安定的に育成・確保」とされており、着実にURA組織を整備する大学が増加することが、目標達成に資する成果と考えられることから、左記指標を設定し、毎年度着実にURA組織を整備する機関数が増加することを目標値とすることとした。																								
活動指標 (アウトプット)	基準値	実績値					目標値	判定																		
	22年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度																			
① 技術士登録者数（人）	71,797	71,797	74,696	77,394	80,211	82,939	対前年度比増	A																		
	年度ごとの目標値	前年度の実績																								
	目標値の設定根拠	○ 技術士の水準を維持するとともに、我が国の技術力基盤の維持・向上のためには、技術士資格を有する者を着実に確保することが必要であり、その目標達成に資する成果として、左記指標を設定し、これまでの各年度末の技術士登録者数（実績値）を踏まえ、登録者数が対前年度比増に達することを目標値とすることとした。																								
施策・指標に関するグラフ・図等																										
④ 大学の自然科学系における女性研究者の採用割合（平成24年度 文部科学省調べ）																										
<table border="1"> <caption>自然科学系における女性研究者の採用割合</caption> <thead> <tr> <th>学系</th> <th>採用割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学系</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>工学系</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>農学系</td> <td>13.8%</td> </tr> <tr> <td>保健系</td> <td>32.2%</td> </tr> <tr> <td>(医学系)</td> <td>23.9%</td> </tr> <tr> <td>(歯学系)</td> <td>32.6%</td> </tr> <tr> <td>(薬学系)</td> <td>21.8%</td> </tr> <tr> <td>自然科学系</td> <td>25.4%</td> </tr> </tbody> </table>									学系	採用割合	理学系	11.2%	工学系	8.0%	農学系	13.8%	保健系	32.2%	(医学系)	23.9%	(歯学系)	32.6%	(薬学系)	21.8%	自然科学系	25.4%
学系	採用割合																									
理学系	11.2%																									
工学系	8.0%																									
農学系	13.8%																									
保健系	32.2%																									
(医学系)	23.9%																									
(歯学系)	32.6%																									
(薬学系)	21.8%																									
自然科学系	25.4%																									
達成手段 (事業)																										
名称 (開始年度)	平成26年度予算額 (執行額) 【百万円】	平成27年度 当初予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号																							
科学技術に関する人材の養成・活躍促進及び理解増進 (平成23年度)	5,104 (4,864)	4,570	167																							

科学技術分野の文部科学大臣表彰 (昭和 34 年度)	24.7 (22.8)	24.7	172
テニユアトラック普及・定着事業 (平成 23 年度)	3,529	2,084	169
女性研究者養成システム改革加速事業 (平成 21 年度)	326	0	168
関連する独立行政法人の事業			
名 称 (開始年度)	平成 26 年度予算額 (執行額) 【百万円】	平成 27 年度 当初予算額 【百万円】	行政事業レビューシート番号
国立研究開発法人科学技術振興機構運 営費交付金に必要な経費 (平成 15 年度)	124,445 (124,445)	100,553	173
独立行政法人日本学術振興会運営費交 付金に必要な経費 (平成 15 年度)	28,005.7 (28,005.7)	27,238.8	176
達成目標 2 に関する 特記事項	<p>○研究論文数が 10 年間で 1000 本以上の国立大学 (63 校) のうち、52 校 (82.5%) がテニユアトラック制を導入済み。</p> <p>○科学技術・学術審議会技術士分科会においては、平成 25 年 3 月からの調査・審議を通して、技術者のキャリア形成過程における技術士資格の位置付け、技術士に求められる資質能力の策定、第一次試験・第二次試験の在り方の見直しなどについて、「今後の技術士制度の在り方について (中間報告)」として、平成 27 年 2 月時点における具体的な改善方策、その方向性や検討状況を取りまとめた。</p>		

施策に関する評価結果			
目標達成度合い の測定結果	目標超過達成 / 目標達成 <u>相当程度進展あり</u> / 進展が大きくない / 目標に向かっていない		
総括的な分析	必要性	広く国民にニーズがあるか。国民の利益に資する施策か。	第 4 期科学技術基本計画 (平成 23 年 8 月閣議決定) に基づいて国として進めることが必要な施策であり、ニーズの高い事業である。
		国が実施しなければ、施策目的を達成できないか。	
		明確に政策目標の達成手段として位置付けられるか。	
	効率性	施策の実施は、その目的に即して必要なものに限定されているか。	いずれの事業についても、公正・中立な選定等を行い、競争性を確保している。 国費の効率的な投入と、事業実施機関における自主経費の支出のバランスに考慮した事業運営を心掛けているほか、額の確定調査において、支出の合理性・用途について適切であることを確認しており、事業の効率性の確保に十分取り組んでいると認められる。
		他省庁や、地方自治体、民間団体との必要な連携が図られているか。	
		他の施策との重複はないか。	
	有効性	施策の実施に当たって他の手段・方法が考えられる場合、それと比較してより効果的に実施できているか。	それぞれの事業において、平成 27 年度の目標値に向け、実績値は年々向上傾向にあり、目標達成に向け着実に進捗していることが認められる。
施策実績は目標に見合ったものか。			

	活動指標の実績が成果指標の実績に反映されているか。	
施策に係る問題点・今後の課題	次期目標・今後の施策等への反映の方向性	具体的な内容 (概算要求・機構定員要求・法令改正・税制改正要望等)
①「テニュアトラック普及・定着事業」の採択機関において、テニュアトラック制の普及・定着が見受けられるもの。30パーセントという目標値を達成されていない。特に、部局単位での取組は進展しているものの全学的な取組とまでなっていない機関も見受けられる。	平成27年度の新規公募において、大学改革の一環として、テニュアトラック制を他部局にも展開する大学等を支援することとする。あわせて、国立大学法人運営費交付金の配分に係る評価や競争的経費の審査・評価において積極的に評価すること等により、テニュアトラック制を人事システムとして定着させることを目指す。	＜新規要求・拡充事業(同額も含む)＞ ・テニュアトラック普及・定着事業 平成27年度概算要求額：3,097百万円
②女性研究者研究活動支援事業を通じて増加を目指した「大学の自然科学系における女性研究者の採用割合」については、目標値に比べ実績がまだ十分ではない	シンポジウムを開催したり、各実施機関のシンポジウムに出席した際に、当該目標を周知するなど、実績値の増加に取り組んでいるところである。また、「女性研究者活動支援事業」を改革し大学・研究機関の改革サイクルとの一体化、個別取組から組織全体及びプラットフォーム化による他機関への展開等を行うことで、研究環境のダイバーシティの実現を目指す。	＜新規要求・拡充事業(同額も含む)＞ ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 平成27年度概算要求額：2,599百万円
③サイエンス・インカレは創設から4年で応募する学生数が大幅な増加となったが、引き続き、応募する学生数の増加が必要。	参加希望者への過年度実施内容の広報活動等を充実し、更なる認知度の向上に努める。	＜新規要求・拡充事業(同額も含む)＞ ・サイエンス・インカレ 平成27年度概算要求額：72百万円

施策の予算額・執行額					
(※政策評価調書に記載する予算額)					
		25年度	26年度	27年度	28年度要求額
<b>予算の状況</b> <b>【千円】</b> 上段：単独施策に係る予算 下段：複数施策に係る予算	当初予算	13,723,001 ほか復興庁一括 計上分 0	11,277,405 ほか復興庁一括 計上分 0	9,045,806 ほか復興庁一括 計上分 0	10,234,393 ほか復興庁一括 計上分 0
		<152,218,701> ほか復興庁一括計上 分<3,353,753>	<147,945,715> ほか復興庁一括計上 分<2,298,767>	<127,791,874> ほか復興庁一括 計上分<486,897>	<147,148,295> ほか復興庁一括 計上分<0>
	補正予算	0 ほか復興庁一括 計上分 0	517,444 ほか復興庁一括 計上分 0	0 ほか復興庁一括 計上分 0	
		<81,905> ほか復興庁一括 計上分<0>	<485,646> ほか復興庁一括 計上分<0>	<0> ほか復興庁一括 計上分<0>	
	繰越し等	10,086,091 ほか復興庁一括 計上分 0	△517,475 ほか復興庁一括 計上分 0		
<△81,905> ほか復興庁一括 計上分<0>		<△403,741> ほか復興庁一括 計上分<0>			
合計	23,809,092 ほか復興庁一括 計上分 0	11,277,374 ほか復興庁一括 計上分 0			
	<152,218,701> ほか復興庁一括計上 分<3,353,753>	<148,027,620> ほか復興庁一括計上 分<2,298,767>			
<b>執行額</b> <b>【千円】</b>		15,741,719 ほか復興庁一括 計上分 0	10,634,457 ほか復興庁一括 計上分 0		
		<152,197,039> ほか復興庁一括計上 分<3,353,753>	<148,026,819> ほか復興庁一括計上 分<2,298,767>		
施策に関する内閣の重要政策（施政方針演説等のうち主なもの）					
名称	年月日	関係部分抜粋			
—	—	—			
政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報					
—					

有識者会議での指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「達成目標1の成果指標⑤について、リサーチ・アドミニストレーターの質的評価を検討していただきたい。」（西島和三委員）</li> <li>○「達成目標2の成果指標③に関連して、テニユアトラック教員の期間終了後のポスト獲得まで評価していただきたい。」（家泰弘委員）</li> </ul>
-------------	---

主管課（課長名）	科学技術・学術政策局 人材政策課（柿田恭良）
関係課（課長名）	初等中等教育局 教育課程課（合田哲雄） 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課（坂本修一） 研究振興局 振興企画課（松尾 浩道）